

研究タイトル：

日本文学における伝説歌の意義

～高橋虫麻呂と再話文学～



氏名：	錦織 浩文 / NISHIKORI Hirofumi	E-mail：	nishiki@anan-nct.ac.jp
職名：	教授	学位：	博士(文学)
所属学会・協会：	萬葉学会, 美夫君志会, 上代文学会, 萬葉語学文学研究会		
キーワード：	上代日本文学, 萬葉集, 高橋虫麻呂, 伝説歌, 再話文学		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・上代日本文学, 萬葉集に関すること ・伝説歌, 再話文学に関すること 		

卒業論文以来、一貫して継続しているのは日本文学研究であり、上代日本文学のうち、『萬葉集』に関する研究を中心とします。中でも特に、浦島伝説歌、菟原処女伝説歌などの、いわゆる伝説歌をうたった歌人、高橋虫麻呂を考察の中心に置き、研究を継続しています。

これまでの研究成果は、平成23年4月出版の『高橋虫麻呂研究』(おうふう)にまとめました。序章「藤原宇合とのかかわり」、第一章「『虫麻呂歌集』に関する考察」、第二章「伝説歌に関する考察」、第三章「表現方法に関する考察」、結章「龍田道の桜」という構成で、高橋虫麻呂に関する基礎的な考察を含め総合的に論じることを目指しています。従来の研究史を辿る点に基礎資料としての意義があり、伝説歌の解釈、表現方法に関して新たな見解を示しているといえます。学会誌、美夫君志第83号(平成24年1月)、萬葉第213号(平成24年11月)に書評等が掲載され、評価を得ていますが、今後の展望としては、周辺の歌人に視野を広げるとともに、虫麻呂歌の文学史的な位置確認を行う必要性があると考えられます。

著書刊行後、科学研究費助成事業に採択され、これを契機として、「高橋虫麻呂の語りの方—萬葉和歌史における伝説歌の意義—」というテーマのもとに研究を進めております。

たとえば、浦島伝説歌は、長歌冒頭にうたい手を登場させ、話を再現した後に再度うたい手を登場させるという独特な構造を有していますけれども、それは、伝説中の人物(死者)を批判的にうたうために必要とされた装置であり、死者を批判的にうたうことを実現させたという意味において、浦島伝説歌は挽歌から離陸し「伝説歌」と称すべき領域の高みに到達したといえる、というようなことを考えています(「浦島伝説歌におけるうたい手の設定」『萬葉語文研究 第九集』和泉書院・平成25年9月)。

現在は、虫麻呂浦島伝説歌とラフカディオ・ハーン「夏の日」(『東の国から』)とを比較し、構成、再話方法の共通性を考察し、両者の間に「再話文学」の系譜ともいべき太い繋がりが見て取れることを考察しています。

今後は、『萬葉集』を中心に置きながら、語りの方、再話文学の系譜という観点を導入し、考察対象をより広く捉えて研究に取り組もうと考えております。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	